

令和4年4月21日
学 務 課

令和4年度川場移動教室について

1 目的

川場移動教室は、区立小学校5年生児童を対象に、群馬県利根郡川場村の区民健康村施設に宿泊し、集団生活を通じて、川場村の美しい自然や文化に触れ、通常の学校生活では得がたい体験学習等を通じて、心身を鍛え、豊かな人間関係をつくりだすことを目的に、昭和61年度より実施している。

2 川場村の空間放射線量の状況

川場村内や区民健康村施設での除染作業は実施済みであり、川場村内の空間放射線量は、低減傾向にある。群馬県立県民健康科学大学杉野准教授による1泊2日で受ける外部被ばく線量の試算結果では、「健康に影響を及ぼす量ではない」との評価を受けている。

3 移動教室の実施

空間放射線量の状況や専門家による線量評価結果などから、区長を本部長とする「世田谷区放射線等対策本部」（4月15日開催）において、移動教室を安全に実施できると判断した。

なお、新型コロナウイルス感染症に関しては、川場移動教室における感染症対策ガイドラインを作成し、感染防止策を講じて1泊2日での実施を予定し、今後、感染拡大の状況によって国の緊急事態宣言が発出された場合には、実施の延期や中止を決定する。

4 今後のスケジュール（予定）

令和4年 5月23日 川場移動教室開始
10月12日 川場移動教室終了

令和4年度 川場移動教室について



■川場移動教室について

川場移動教室は、自然に親しむ機会の少なくなった都会の子どもたちが、川場村の自然や文化に触れ、集団生活と様々な体験活動を通して、豊かな人間性を培うことを目的に、区立小学校5年生を対象に授業の一環として実施しているもので、飯ごう炊さんや村めぐり等さまざまな体験活動を行います。教育委員会としましては、安心してご参加いただけますよう調査、対策を行っています。

■令和4年度 川場移動教室について

区では、川場村における様々な取り組みや放射線量の状況等を踏まえ、区長を本部長とする「世田谷区放射線等対策本部」において、放射線等の影響に関して、川場移動教室は安全であると判断し、令和4年度も川場移動教室を実施いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響に関しては、川場移動教室における感染症対策ガイドラインを作成して感染防止策を講じて実施してまいります。感染状況による国の緊急事態宣言の発出等がある際には、実施の延期や中止について決定してまいります。

■川場移動教室における新型コロナウイルス感染症対策（例）

移動教室 全般	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設内での密を避けるため、児童数の多い大規模校は2回に分けて実施します。全校1泊2日で実施します。 ・マスクを着用して行動します。 ・入館、入場、乗車の際に、手指消毒をします。 ・ソーシャルディスタンスを確保するようにします。 ・大声は禁止。会話は控えめにするよう指導します。 ・室内のもの、設備には極力手をふれないよう指導します。
バス	<ul style="list-style-type: none"> ・車内は常時換気システムにより5～10分程度で空気が入れ替えられます。 ・車内での水分補給は、隣り合う人と同時にマスクを外さないよう指導します。
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・入館の際、サーモグラフィーによる検温と手指消毒をします。 ・手指消毒液を各出入口、洗面所、トイレ、食堂、浴場等に設置します。
食堂	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の直前までマスクを外さないよう指導します。 ・食事中の会話はしないよう指導します。 ・パーテーションを使用して食事をします。
洗面所	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きやうがいの時に、水を周りに飛ばさないよう指導します。 ・パーテーション、ペーパータオルを設置します。
浴場	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に入浴する人数を減らします。 ・室温に配慮しながら、換気をします。
宿泊部屋	<ul style="list-style-type: none"> ・10畳の部屋に、原則6名までの利用とします。 ・部屋の入口扉を開け、常時換気を行います。 ・就寝前まで、30分に一度窓を開け、換気をします。

■新型コロナウイルス感染症対策としてご家庭にお願いする主なこと

実施前	各家庭での検温、健康観察をお願いします。同居するご家族の健康観察も併せてご協力をお願いします。体調に不安がある場合や家族に体調不良がある場合は、参加を見合わせていただく場合がございます。
抗原定性検査	集団感染の発生を防ぎ、児童が安心して川場移動教室に参加することを目的として、実施前日に各家庭での検査の実施をお願いします。（任意の検査となります。） なお、感染状況によって実施の有無を検討します。
同意書	移動教室における新型コロナウイルス感染症対策等をご理解いただき、参加同意書をご提出いただくようお願いさせていただきます。
緊急連絡	発熱等感染が疑われるような事態が発生した場合、保護者の皆さまへ緊急に連絡する必要があるため、移動教室中は電話による連絡体制にご配慮をお願いします。
体調不良時	発熱等の症状が確認され、参加の継続ができないと判断された場合は、保護者の方にお迎えをお願いします。

■原発事故による放射線等の影響への取組み

東日本大震災での原発事故による影響につきましては、川場村と世田谷区が連携しながら、放射線量の測定や除染作業等を行い、さらに専門家による線量評価の結果等を踏まえ、移動教室が安全に実施できると判断し、移動教室を実施してまいりました。

《世田谷区取組み》

移動教室の宿舎である区民健康村施設について、宿泊棟周りの外壁及び側溝の洗浄、表土除去等の除染作業を実施しました。また、放射線量の測定をはじめ、食事や水道水の放射性物質検査等を定期的に行っています。

《川場村取組み》

汚染状況重点調査地域の指定による、空間放射線量低減のための除染実施計画を策定し作業を実施、完了しています。また、村内水道水の放射性物質検査を定期的に行っています。さらに、移動教室の実施に際して、滞在期間2日間で受ける外部被ばく線量の試算及び線量評価を専門家より受けています。P.4参照

《その他》

群馬県では、県内の農林水産物の放射性物質検査を実施しています。

国では、全国にモニタリングポストを設置して空間放射線量の測定を行っています。川場村には川場村武道館に設置されています。

【空間放射線量の状況】(単位: $\mu\text{Sv/h}$)

◆区民健康村施設等(世田谷区測定) P.3参照

測定日	平均測定値	測定場所
R3.11.20・21	0.064	41箇所平均

◆モニタリングポスト

測定日	平均測定値(24h)	測定場所
R4.4.1	0.038	川場村武道館

◆世田谷区内(世田谷区測定)

測定日	測定値	測定場所
R4.4.1	0.029	上野毛自然公園

※放射性物質汚染対処特措法に基づく基本方針では、長期的な目標として $0.23\mu\text{Sv/h}$ 未満をめざすこととしています。



写真(左) ふじやまビレジ
写真(右) なかのビレジ

■移動教室のさらなる安全安心のために

移動教室の実施にあたっては、さらなる安全安心のために、食事や諸活動について引き続き、様々な対策や配慮をまいります。

《川場移動教室での食事について》

●食事の放射性物質検査

滞在中に提供される食事の放射性物質検査をしています（調査開始の平成24年度からこれまでに、放射性物質は検出されていません。結果は区のホームページで公表しています）。

●食材産地公表

川場移動教室で提供する食事の主な食材の産地を、実施中の学校に情報提供しています。

《諸活動にあたって》

●飯ごう炊さんで使用する薪

⇒林野庁の基準値(40Bq/kg)に適合したものを使用しています。

●キャンプファイヤー用の薪

⇒角材に製材したものを使用しています。

●活動で使用する農産物等の検査

⇒りんごやマス等の農林水産物については、群馬県にて放射性物質検査を実施しています。



■川場区民健康村施設及び周辺における放射線量測定結果【世田谷区測定】

世田谷区では、川場区民健康村施設を安心してご利用いただくために、区民健康村施設の空間放射線量(地上1メートル)を毎月測定しています。これまでに、比較的線量の高かった場所については除染作業を実施済みです。直近(積雪前)の測定値でも、国が追加被ばく線量の長期的な目標としている毎時0.23マイクロシーベルト※を下回っており、安全が確認されています(下記参照)。

下記表は測定結果の抜粋です。全測定結果は区のホームページで公表しています(下記二次元コードよりご覧いただけます)。

川場区民健康村施設及び周辺における放射線量測定結果一覧

測定高:地上1m(一部地表あり) 単位:μSv/h 測定機器:富士電機NHCT

測定場所	地表の状況	R3.10・11・13	R3.11.20・21	
		9:36~16:30	8:47~17:07	
		晴れ・雨	晴れ	
ふじやまビレッジ	玄関前入口	石	0.069	0.067
	玄関前広場(中央)	インターロッキング	0.072	0.083
	野外炊事場内	コンクリート	0.044	0.041
	野外炊事場から10m外側	草地	0.039	0.045
	キャンプファイヤー広場	砂利	0.050	0.056
	農作業畑	土	0.059	0.063
	同(地表)	土	0.066	0.066
	マスカみ取り池	土	0.051	0.038
	ドン・キホーテ像前通路	土	0.062	0.068
	工房前	砂利、敷石	0.068	0.060
なかのビレッジ	宿泊A棟中庭広場	土	0.044	0.052
	宿泊B棟中庭広場	土	0.047	0.052
	玄関前	アスファルト	0.066	0.066
	野外炊事場(上段)内	コンクリート	0.030	0.051
	野外炊事場(上段)から5m外側	砂利	0.044	0.035
	キャンプファイヤー広場(食堂前広場)	砂利	0.046	0.067
	屋内広場脇駐車場	アスファルト	0.061	0.078
	農作業畑	土	0.060	0.073
	同(地表)	土	0.058	0.069
	野外炊事場(下段)内	コンクリート	0.034	0.033
川場中央公園(歴史民俗資料館玄関前)	野外炊事場(下段)から5m外側	土、砂利	0.047	0.045
	キャンプファイヤー場(屋根付広場上)サークル	レンガ	0.070	0.067
	森のむら前庭平坦部	芝生・土	0.042	0.049
	てんぐ山公園 マスカみ取り池	砂利	0.061	0.063
	川場中央公園(ふれあい広場)	コンクリート	0.069	0.070
	田園プラザ川場	芝生	0.078	0.073
		人工芝	0.063	0.068



■移動教室に関する専門家の評価 【川場村提供】

移動教室の実施にあたり、川場村では、移動教室の主な行程に沿って宿舎、ハイキング道、キャンプファイヤー地点等の空間放射線量を測定し、専門家による評価を行いました。

その結果、2日間の合計線量は、「ふじやまビレジ」2.68マイクロシーベルト、「なかのビレジ」2.93マイクロシーベルトであり、健康に影響を及ぼすものではないとの評価を受けました。（下記参照）

川場村内各施設等における空間放射線量測定について

都市交流事業の一つである川場移動教室において利用される「ふじやまビレジ」「なかのビレジ」および各施設（ハイキングコースを含む計13箇所）の空間線量率測定結果より、滞在期間2日間における外部被ばく線量を試算しましたので報告します。

測定結果

令和3年12月22日、シンチレーション式サーベイメータ（アロカ TCS-172B）を用いて、利用施設13箇所の空間線量率を測定（地表から約1mの高さ）しました。その結果、空間線量率は、0.04～0.08 マイクロシーベルト^{注1}毎時の範囲にあり、平均値は0.06 マイクロシーベルト毎時でした。令和3年1月10日の測定値は、0.03～0.08 マイクロシーベルト毎時の範囲にあり、平均値は0.05 マイクロシーベルト毎時でした。昨年度と平均値を比較してみると、0.01 マイクロシーベルト毎時ほど大きい値となりましたが、残雪^{注2}または除雪等による線量率の変動と考えられます。また、今回の測定結果の最大値（0.08 マイクロシーベルト毎時）についてですが、もし、その場所に1年間滞在したとすると、外部被ばく線量は0.7 ミリシーベルト（=700 マイクロシーベルト）と見積もられ、国が示した自然放射線の量（0.04 マイクロシーベルト毎時）を差し引いて「追加被ばく線量」のみを求めると0.35 ミリシーベルト（=350 マイクロシーベルト）となります。この値は、国が示した「追加被ばく線量」である年間1 ミリシーベルト（=1,000 マイクロシーベルト）よりも小さく、注視する値ではありません。

注) 1 「シーベルト」とは、放射線による人体への影響の程度を考慮して表された放射線の量の単位[Sv]です。

注) 2 ふじやまビレジの作業畑およびハイキングコース、なかのビレジのキャンプファイヤー場およびハイキングコースにおいては、残雪上での測定結果を用いました（残雪約5cm）。

外部被ばく線量評価

「ふじやまビレジ」および「なかのビレジ」それぞれの宿泊施設における児童の活動パターンに合わせて、滞在期間2日間で見積もる外部被ばく線量の合計を見積もってみました。その結果、「ふじやまビレジ」および「なかのビレジ」はそれぞれ、2.68 マイクロシーベルト、2.93 マイクロシーベルトと見積もられ、昨年度とほぼ同じ値となりました。ここで、両者の平均値約2.8 マイクロシーベルトという値がどのくらいのレベルであるかを簡単に説明します。日本国内では、自然からの放射線（大地、宇宙、食物、ラドン・トロン等）を1年間に約2,100 マイクロシーベルト浴びていると報告されています。したがって、今回見積もられた外部被ばく線量約2.8 マイクロシーベルトはその1/750程度であり、健康に影響を及ぼすレベルではありません。また、外部被ばく線量の評価のみで内部被ばく線量の評価は行っておりませんが、呼吸による内部被ばく線量は外部被ばく線量の2%前後と見積もられており、内部被ばくについても健康への影響を心配することはありません。

したがって、今回見積もられた外部被ばく線量約2.8 マイクロシーベルトはその1/750程度であり、健康に影響を及ぼすレベルではありません。また、外部被ばく線量の評価のみで内部被ばく線量の評価は行っておりませんが、呼吸による内部被ばく線量は外部被ばく線量の2%前後と見積もられており、内部被ばくについても健康への影響を心配することはありません。

〔参考資料〕 （公財）原子力安全研究協会「生活環境放射線」（2011年）

測定値について

本線量評価は、川場村が委託している測定員が測定した結果に基づくものであり、群馬県立県民健康科学大学 大学院診療放射線学研究科 准教授 杉野雅人 博士が監修を行いました。

川場移動教室は授業の一環として実施しており、参加が原則となりますが、新型コロナウイルス感染症への不安、または放射線の影響への不安による不参加の場合は、登校し課題を行う等で、「出席」扱いとなります。なお、新型コロナウイルス感染症への不安から不参加で登校しない場合でも、欠席扱いにはなりません。